

陽気だより

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます

No. 35 2010.2.15

第4号(24年8月号)から

「陽気」は、昭和24年4月の創刊、今年で61年を迎えます。過去の記事から、その歩み的一端を振り返っていきます。



当時、本誌には、こんな題名の小説が載っていたんですね!

1 日曜日の外は毎日、稽古場に通った。活花、茶の湯、和裁、洋裁、料理、声楽、ダンス、区女学院の専門部では英語を専攻した。

養子を迎えるまでに、まだ一年はある。

娘のうちにお稽古ごとはちゃんと身につけておかないと、ちゃんとしたお稽古ごとはつかぬ思いを残すものよ。

母の世津の言葉にクルミは殊勝に、こくんとうなずき、別に一週六日間の稽古事を苦に病む様子もなかった。

眠いと言って九時まで、寝ているのを、

「さあ、さあ、今日は水曜日よ、クルミさん、お料理のお稽古の日よ。」

いやおうなしにクルミは起

こされる。が、外出着に着換えてしまおうと、しゃんとなり、明るい笑顔で、茶の間で目を細めて朝刊を読んでいる世津の前へ、

「はい、お母さん。」

クルミはオペラ・バッグのような小型の緑色のナイロンのハンド・バッグの口をあけて小箆筒をあけて札束をハンド・バッグの中に無造作に入れてやった。五千円の時もあ

るし、一万円の時もあった。クルミのお小遣いである。

「お土産買ってきてあげるわね、春風堂のアイスクリーム、ふふん。」

お小遣いの多い時にはクルミはそんなお世辞を言う。

「そうだね、クリームが欲しいわね。」

「ついで、ついでこまれて世津が笑顔でも見せると、こんな風にクルミはねだった。」

「ねーえ、私、コンビネーションほしんだけだな。」

「あら、あら、またお靴? この間、あつらえたばかりじゃないの。」

「だってえ。」

クルミにすねられると世津は身も世もあらぬ悲しみにおそわれる。

だから大抵のことは聞いてやらねばならなかった。

世津は後妻である。クルミの十四の時に初瀬の後添えになった。

(後略) ※クルミは、このあと、稽古ごとのひとつに通っていた。ピアノ教師の作曲家と、一度あやまちをおかすが、突然、結婚してしまうという筋書き。

変り種ナンバーワン競べ

三振王と四死球王

プロ野球で、ホームラン・キングや打点王は誰でも知っているが、では、三振NO1は誰だろうか? これを、プロ野球昨年度の記録で調べてみよう。

まず、打撃の方から、三振王は、現中日ドラゴンズの正左翼手杉山

悟選手(岡崎中出身、二二歳)である。巨漢杉山選手は将来のホームラン王としてシヨク望まれ、現

に今シーズンに入ってからは五月九日現在四本のホームランを飛ばして、漸くその頭角を現し、

西澤(道夫・後、中日の監督)につぐホームラン打者として中日フ

アンを喜ばしつある。杉山選手が西澤の三番について四番を打つようになるとこそ、中日の黄金時代が出現しよう。それも遠い将来ではあるまい。この杉山選手か、

昨年度は、八十六個の三振を喫して、三振NO1になっている。背番号三十三というのも、そう言え

ばちょっと気になる番号だ。さて、次は投手で四死球を、い

ちばん、たくさん出したのは、誰か? 東急フライヤーズの新進投手、背番号十五番の黒尾重明選手(都化工出身、二十四歳)である。

黒尾投手は昨年末の東西対抗に好投して東軍のために健闘し、大いに男をあげ、また今シーズンも始

めは不調を伝えられたが五月十一日の対巨人戦には健闘して勝利投手となつている。瘦躯(そうく)

よく快速球で大物を倒して大向うをうならせる怪腕の持主だが、この黒尾投手が、昨年度は四球百十七個に死球五個を敵打者に与え、

四死球NO1である。

◎神に生きるもの◎

教祖様が貧のどん底に落ち切られた時、久五郎という人がお徳を慕ってお屋敷に来て、今日でいうひのきしんをしていた。毎朝の久五郎さんの仕事は、教祖様が、

「朝御飯を炊いてや」

と言われたら御飯炊きをするのが、唯一の、又欠かしたくない仕事であった。

しかるにある朝のこと、何時までたっても、いつものように、

「御飯を炊いてや」

という御言葉がないので、久五郎さんは不思議に思っていた。

時は容赦なく流れて行く。

八時、九時……しかも、教祖様は黙々として糸つむぎに余念がない。

その時、ある信者が重箱に

お米を入れてお供えに来た。教祖様はこれを神様にお供えして後、

「久五郎さん、これで朝ごはんを」

と言われ、又糸つむぎをつづけられた。

久五郎さんは「なるほど」



と感心した。そして、神に生きる者は神によって生かされることを、しみじみと悟った。

(天理時報・昭和六年十一月より)

◎荒波をしずめる◎

昭和四年三月のことであった。九州地方の近海は大変荒

北海道に血と汗と涙を流した伝道の記録

大好評！
大地を駆ける伝道者たち

初の地域限定おたすけ実録集

天理教北海道教務支庁編
四六判並製 304 頁
定価=1,575 円 (税込) 〒200
図書出版 養徳社
天理市川原城町 388
☎(0743)62-4503
http://yotokusha.com/

れて沈没した舟が随分あった。

大分県臼杵(うすき)の浜

でも、沢山な漁船が荒れ狂う

怒濤の中で岸に近寄ることが

出来ず、海岸には多くの人が

集っていたが、最早誰の目にも

も助かるとは思われなかった。

その時、尊い「お授け」の

理を頂いていた漁師の妻が、

見るも怖しい波打ち際に進み

出て、一心不乱にお祈りし、

親神様にお願ひした。すると、

今の今まで怒濤逆巻いていた

海はやがて次第に静まって穏

やかな海面と変わり、並いる人

人の口からは思はず知らず「不

思議やなあ」と驚きの言葉が

もれた。

この不思議な御守護により、

その婦人の夫も又他の漁師達

も助かり、喜びは期せずして

臼杵支教会の建築となつて現

われたのであった。

(みちのとも 昭和六年より)

※どちらの話も「信仰例話集 真実の道」(道友社刊)による。

「陽気」創刊 60 年記念出版

お道の人のおとておきの話

お道の人のお美しい心象風景 52 話
朝席・夕席に最適です
定価=1,260 円 (税込) 送料 200 円

「陽気」創刊 60 年記念出版

道の八十年

—松村吉太郎自伝—
天理教の歴史とともに
生き抜いた信仰軌跡

松村吉太郎 著 定価=1,680 円 (税込)
(高安大教会初代会長) 送料 200 円

「陽気」創刊 60 年記念出版

人生二終なし

じんせいにおわりなし
—父 柏木庫治を語る—
●三人の兄妹によるてい談
●「陽気」掲載記事
●柏木庫治小伝
定価=1,260 円 (税込) 送料 200 円

養徳社 よもやま話

○月○日 紙で「招き猫」を作ってみた。紙に印刷をし、十七枚のパーツに切り分け、組み立てた。仕上げに「陽気」と書家に書いてもらった小判を持たせた。完成度は高くできたと思うが、表情に丸みが足りない。男の作品だけに、柔らかさがない。「陽気な招き猫」を作れず残念。



○月○日 月々の積み立てで天橋立へ社内旅行に行き、カニ料理を堪能した。遊覧船からカモメにえびせんをやっていると手を突かれ大声を上げるシーンも。帰りの電車の発車時間が迫る中、物産店で大ダコの足の一夜干をぶつ切りにしてもらい購入。車中で食した。隣の女性社員に感想を尋ねると「のどを通らない」と言ったあと、カニのように泡を吹きそうになっていた。

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用ください。ますよう、お願い申し上げます。

養徳社